

導入メリットと課題

導入のメリット

- ・早期成園化（定植3年目で樹形が完成）
- ・早期多収（定植3年目で慣行栽培成園並の収量）
- ・土壌に問題を抱える土地でも栽培が可能
- ・慣行栽培と比較して果粒の肥大が良い

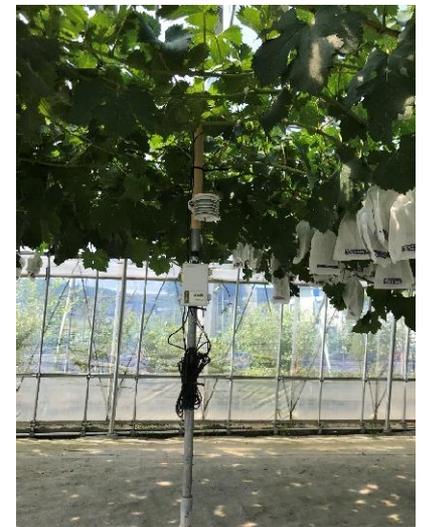
課題（今後の取り組み）

- ・導入コスト
- ・水源（かん水が必須のため水源が必要）
- ・施肥方法や品種によるかん水量の設定
- ・改植の時期

水稲育苗ハウスと盛土式根圏制御栽培法を利用した ブドウの早期成園化技術の実証

(2018年～)

- ◆ 目的: 原発事故後の放射性物質汚染リスクの低減と風評払拭も兼ね、需要が堅調で直売所等での販売が容易なブドウ栽培の拡大を浜通り地域で目指す
- ◆ 水稲育苗ハウスの活用に加え、新たに盛土式根圏制御栽培法を導入して早期成園化と生産効率の向上、果実品質の安定を実現する栽培体系の実証

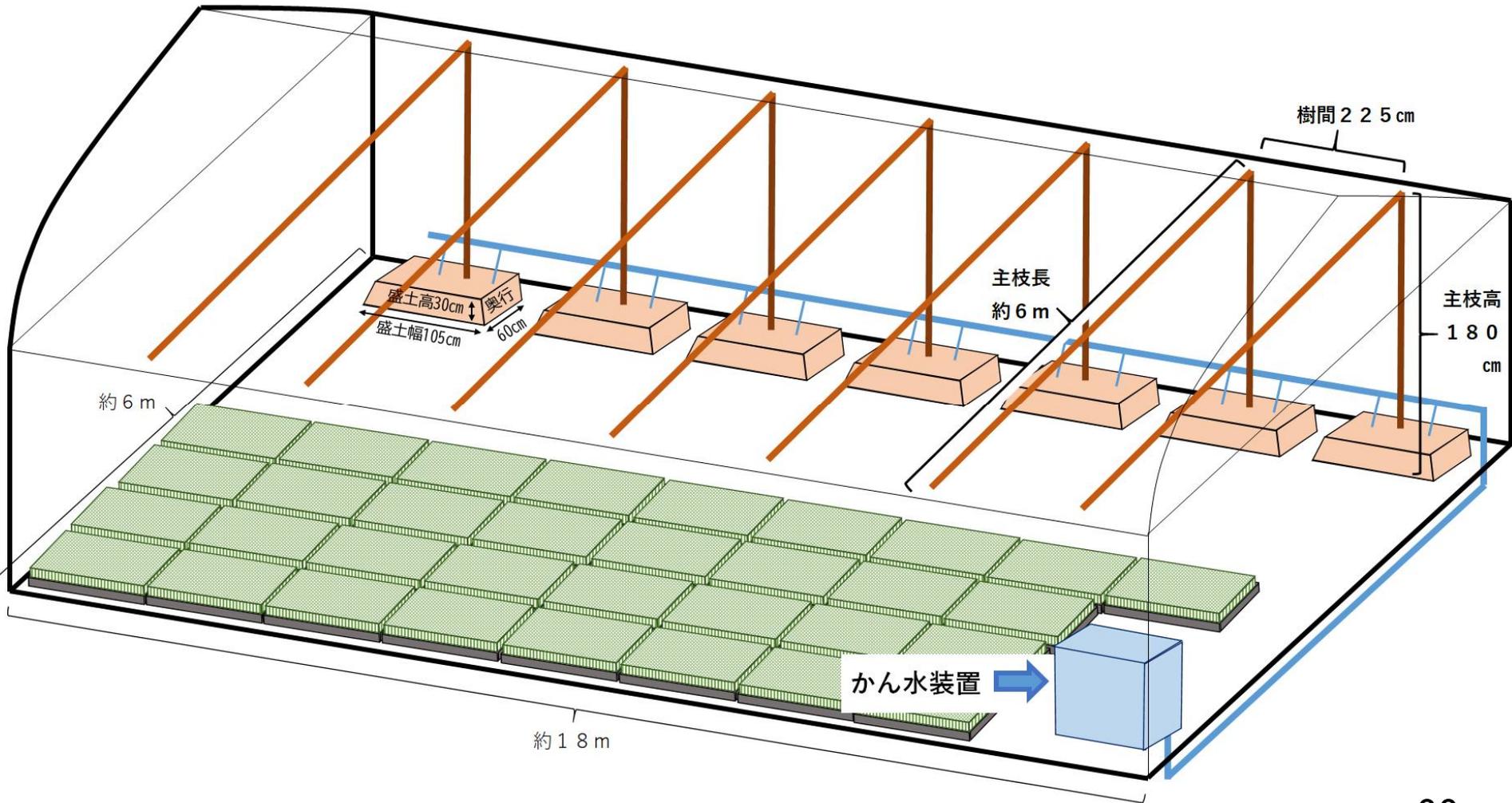


水稲育苗ハウス盛土式根圏制御栽培法とは

水稲育苗ハウス内に、遮根シートにより地面と隔離した盛土を設置し、ブドウ樹の生育に合わせて養水管理を行う栽培です。



水稲育苗ハウス盛土式根圏制御ブドウ栽培法の模式図



水稲育苗ハウスの高温対策



妻窓や天窗による熱気の排気

水稲育苗ハウスの高温対策



天頂部の小型換気扇による熱気の排気

樹の育成と果房の着果

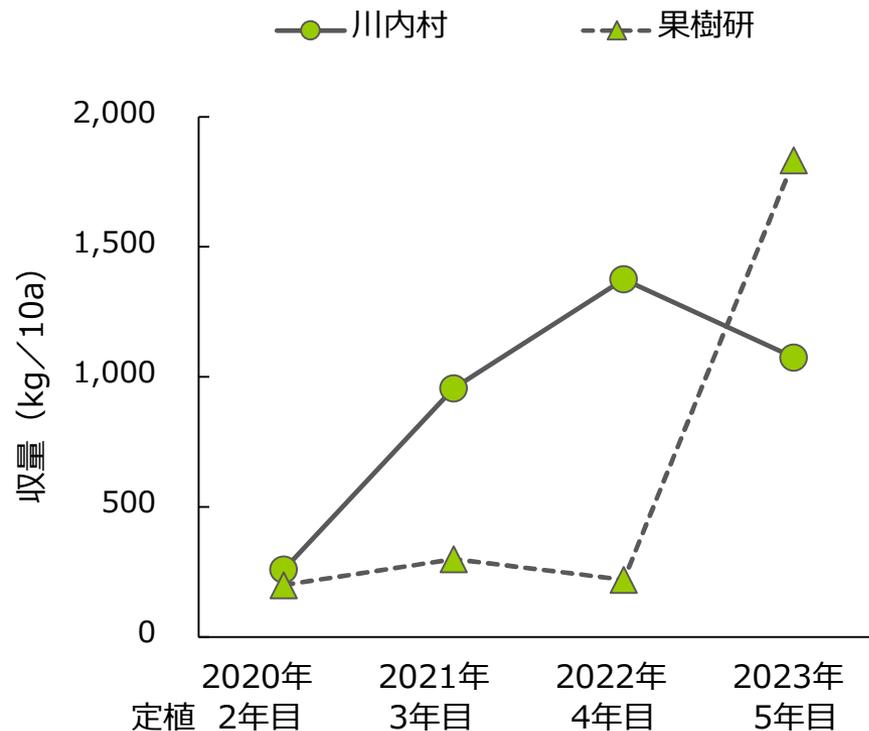
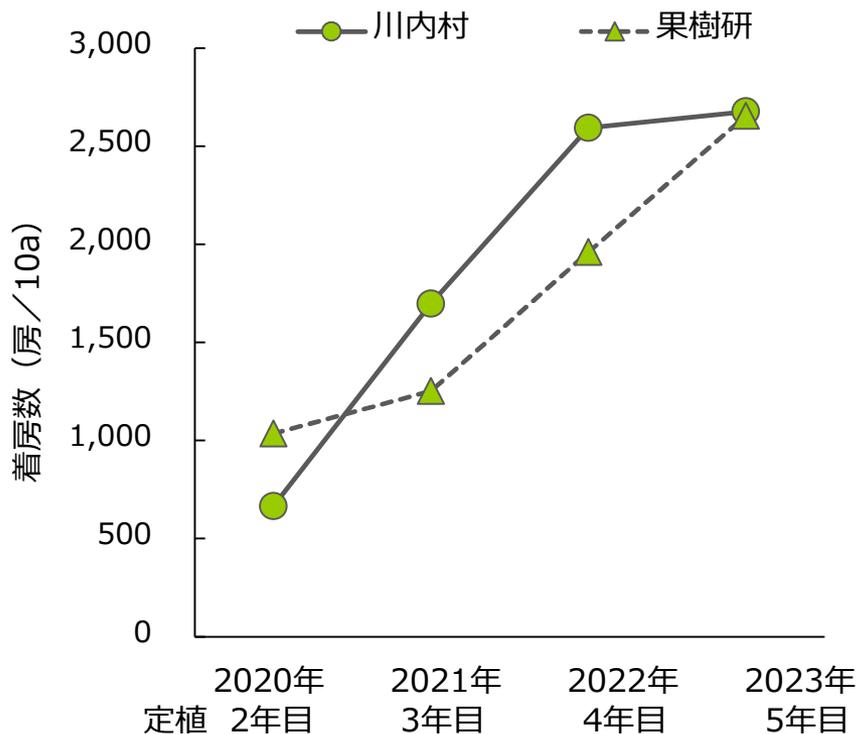


一直線の一本主枝に仕立てた



短梢せん定とし、主枝を中心に左右に果房をならせる単純な樹形とした

シャインマスカットの着房数と収量(10a換算)



定植4～5年目には成園並の着房数と収量となった

シャインマスカット果実品質(2023年)

試験場所	果房重 (g)	果粒数 (個)	果粒重 (g)	果皮色 (C.C.)	糖度 (°Brix)	酒石酸含量 (g/100ml)
川内村	443.2	46.0	9.4	3.8	18.0	0.16
果樹研究所	693.8	41.9	16.5	2.8	18.2	0.24

注) 果皮色は果実カラーチャート値：ブドウ シャインマスカット (山梨県版)
(1 (未熟) ~5 (過熟)))

糖度は18° Brixを超え、食味は良好だった

まとめ

- 定植 2 年目から収穫でき、
定植 4 ～ 5 年目には成園並
となった
- 果実品質は良好だった
- × 葉や果房に日焼けが発生した
- × 樹勢の低下が見られた



- ・ 高温対策
- ・ 品種によるかん水量や施肥方法の検討
- ・ 改植の時期の検討